

SSKP

プリンシプル

相模原ダルクニュースレター 第30号(2022年5月)



第4回修了式

一般社団法人相模原ダルク 代表理事 田中秀泰

さわやかな初夏の風が吹くころとなりましたが、皆様ますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。お陰様で相模原ダルクの利用者、スタッフ共に変わらず全員健康で元気にそれぞれのプログラムに励んでおります。

大変残念なお知らせですが、本年2月27日我々全国にあるダルクの生みの親である、近藤恒夫氏が大腸癌のため東京都内の自宅にて生涯を閉じました。近藤さんのお陰で数えきれないほどの依存症者がダルクを通して生き方を変えるチャンスを得ました。ここに、衷心より哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈りいたします。ダルク創設者である近藤さんのエピソードは本誌でもたくさん触れて参りましたが、同じ依存症者であるロイ神父と出会い、どちらが上でも下でもなく、共に支え合いながらダルクを全国に広めていかれたお話が、特に印象深く私の心に残っています。私自身も恩師である千葉ダルク代表白川雄一郎さんとの運命的な出会いから、かれこれ15年程経ちますが、白川さんから怒られた事や無理やり強制された事は一度もなく、在日韓国人で暴力団の父を持ち、当時本当に素行が悪かった私に対して、何の偏見もなく一仲間として関わってくれました。当然、重度の薬物依存症だった私はクリーンが続かず、その後何回もリラプス（再使用）してしまいう事になりますが、私自身が薬物を手放し、生き方を変える決心がつくまで根気よく見守って下さいました。仮に白川さんやダルクと出会わずに、刑務所や何らかの手段で強制的に薬物を止めさせられていたらと思うと、ゾッとします。おそらく今頃は刑務所と精神病院を行き来し死んでいたかも知れません。ダルクという素晴らしい組織に属している事に感謝し、ダルクに頂いた命を少しでも社会にお返しできるよう、スタッフと共に頑張っていこうと思っております。

本号の仲間の記事では、3月に開催された第4回修了式で表彰された仲間に執筆して頂きました。コロナ禍で本当に大変な一年でしたが、卒業生2名、修了者1名を輩出できました。

依存症とは孤独、寂しさの病だと近藤さんが常日頃言われていたのを思い出します。卒業して社会復帰することは素晴らしい事です、仕事に追われ対人関係に疲れたら、ぜひダルクに顔を出してほしいと思っております。

『八年の歩み』

ガク

皆さまこんにちは、アルコール依存症のガクです。私は平成26年1月28日に八王子市の駒木野病院を退院し、その足で相模原ダルクに入寮しました。場所は相模原市緑区千木良にありました。私は生まれも育ちも相模原です。アルコールを一人では止める事が出来ず施設に入寮する事を自分で決めました。あれから8年が過ぎ、この度相模原ダルク修了式を迎えさせて頂くことになりました。入寮時アルコール2名、ギャンブル4名、薬物5名の11名で生活をする事になりました。この場所は私が言うのもおかしいですが森と湖の町で近くには相模湖があり、とても生活しやすい場所です。その反面、知っている人に会わないかなど不安な所も多少ありました。この年の一番の思い出に残っているのが2月に大雪が降った事を覚えています。この日は私が病院の診察日になっていたのでスタッフの運転する車で病院に向かいました。朝のうちは大した雪ではありませんでしたが帰りにはかなりの雪が道路に積もっていました。タイヤチェーンも無くとても厳しい状態でした。とにかく寮に戻らなければと思いスタッフは車を行きとはちがう山道で無いルートで走らせていました、しかし雪は積もる一方で止む気配はありません。そして坂道に差し掛かった時、前で大型トラックが道をふさいでしまっただけで走れる状態では無くなりました。時間は刻々と過ぎて行き周りも暗くなって来ました。スタッフは誰かに電話を掛けていましたが誰か分かりませんでした。後で聞いたら代表だったそうです。ガクの家に泊めてもらえと言う事でした。施設に繋がって2週間目の出来事でした。自分は家に帰りたくないから施設入寮を決めたのにとおもいましたが、しかたなく家に泊まりました。今考えればとても苦しい1日でした。それから施設のプログラムに毎日参加し、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、1年と時間が過ぎて行き、寮生活にも慣れた時、1年のバースデーを迎えられました。ところが1年5ヶ月が過ぎた5月3日父親が他界しました。その日は祭りで近くの川でバーベキューを楽しんで寮に帰った夕方でした。父親が亡くなったという一報が私の耳に入って来ました。生きている内に一言話しがしたかったと思うと涙が止まりません。入院していた病院に仲間に連れて行ってもらい、父親と対面、体はまだ温かかったのを覚えています。施設の配慮で葬式にも出席する事が出来ました。本当に感謝しています。ところがこれから私がどん底に落ちる時でした。初めに一本ぐらいならと思い缶チューハイを買ってしまいました。缶のフタを開けるのにはかなりの時間がかかりました。又、口まで持って行くのにも時間がかかり一口飲んだのは20分後位かと思います。それからもう止まりませんでした。アルコール依存症の私にとって連続飲酒になるまで時間はかかりませんでした。この時私はスタッフをしていたので自由な時間は自分で取れるようになっていました。一人でコンビニへアルコールを買いに行く事は簡単でした。毎日NAが終わると一人部屋で酒を飲んでいました。それも2ヶ月間も仲間にバレない様にして朝は普通にプログラムに参加していました。風邪でも無いのにマスクをし、ガムをかんで本当に苦しく辛い日々を過ごしていた7月16日の事でした。この日は父親の新盆の日でした。帰りには昔よく行っていた居酒屋に寄ってしまい、酒を飲んでしまい寮に帰りました。そして自分の飲酒がバレてしまい、私はこの日から又1からのスタートです。父親がもういい加減にしろと仲間に教えてくれたのでしょ

う。あれからもうすぐ7年になろうとしています。仲間も50人以上の人数になりました。今はコロナの関係でプログラムもままならない状況ですが、仲間と共に楽しい生活を送らせてもらっています。今私は相模原を離れ大和市の初期寮の寮長をさせてもらい19名の仲間と生活を共に送っています。正直大変な面もありますが、副寮長2名、サポートスタッフ4名とメンバーの仲間をサポートし、協力し助け合いながら見守っています。毎日が大家族の様に楽しく過ごしています。これから先の事はまだ考えていませんが、いずれは仲間と離れる時が来るでしょう。今は仲間とクリーンを続けプログラムに参加して行こうと思います。飲酒欲求も無くなり私の体も安定しています。3ヶ月に1回の病院検査でも特に問題はありますが、自分の体を大切にこれからも生活して行きたいと思っています。プログラムの中のエイサーも思う様に練習も出来ず、エイサー好きの私にとっては寂しいですね。でも自分の年も考えてやって行こうと思います。

最後になりますが、施設、仲間には本当に感謝してもしきれません。これからもよろしくお願いしたいと思います。本当にありがとうございます。

『卒業を迎えて』

タオ

こんにちは、ギャンブル依存症のタオです。

晴天の青空と桜咲く 3 月 28 日、2 名の仲間と共に卒業式を迎えることができました。

まずは、卒業にあたり、たくさんの方々に感謝を伝えたいと思います。ダルクという依存症回復施設を作ってくださった創設者の近藤さん、相模原ダルクを開いてくださった代表のヒデさん、同じアディクションということで入寮の背中を押してくださったトシさん、仕事のパートナーと言ってくくださるリュウスケさん、相模原ダルクを見つけ、入寮のために奔走してくださった弁護士吉澤先生、迷惑ばかりかけていたのに温かく見守ってくれている家族、そして、ダルクの仲間たちに、心より感謝いたします。

相模原ダルクに繋がる 6 年くらい前、自己破産をして人生の再出発をしましたが、結局、またギャンブルをし、5 年程で再び、「借金をどうしよう」と頭を抱える生活に戻っていました。ギャンブルは止まらないし、借金は増えていく。弁護士に相談してもギャンブルの借金では聞き入れてくれず門前払い、病院で処方してもらっても良くならない。宗教にすがった時期もありました。仕事を変えても状況は良くなりません。自分はどうしようもないダメ人間と思う反面、社会や世の中のせいにして、死ぬこともできずに現実から目を背けて生きていました。そして、とうとう底を突き 2017 年 8 月に相模原ダルクに入寮します。生まれて初めての共同生活が、僕を変えてくれました。入ったばかりの僕にとってダルクでの生活は違和感と苦労ばかりでしたが、その原因は、自分のプライド、拘り、自分の価値観だったのだと気付くことができ、そして、自分に目を向けることができるようになりました。仲間との生活と 12 ステッププログラムで考え方が変わり、人生が変わったと思います。窮屈な共同生活の中で仲間と感情を表に出し、ぶつかること、意見を言い合うことは、幼い頃から今まで我慢ばかりで僕がやってこなかったこと、できなかったことで今、その大切なものを取り戻しているように感じます。性格上の欠点を仲間に揉まれながら直していくことは、さながら心のカイロプラクティックという感じです。

自分自身に目を向け、過去を振り返り、遡って突き詰めると、「障害を持った弟の存在が自分の劣等感」という所に辿り着きました。弟の存在が劣等感だなんて、酷い兄です。ただ、小さい頃の僕は、そう思っていました。その劣等感を隠すように一生懸命弟の世話をし、優しいお兄ちゃんになろうとしていたのかもしれませんが。ダルクに繋がらなかったら、一生気付かずにいたと思います。

ダルク生活は、嫌なこと、辛いことを率先してする。これもプログラムの一つだと思っていますが、それ以上に楽しいこともたくさんありました。コンベンションやフォーラムで地方に行ったり、いくつかのダルクと合同でキャンプをしたり、沖縄に行ったり、初めて海外へ行くこともできました。今まではギャンブルに明け暮れて、借金を作り、海外どころではありませんでしたが、クリーンを重ね、海外へ行く機会も与えていただきました。最近では、三線をやり始めました。エイサー演舞に合わせて弾けるように練習中です。とても良い刺激になっています。慌ただしい日々ですが、なにかと充実し、意外とクリーンを楽しんでいる気がします。ダルクを選択していなかったら、こんなこともなかっただろうと思います。

入寮から 4 年半。再出発の道に立てる日が来ました。卒業式を迎えたといえども、依存症は完治しない病気。決してゴールではありません。この先もずっと依存症と付き合いながら、仲間たちの力を借りて、やり直し始めた人生を大切に生きたいと思います。今回の卒業で、まず一区切りつきました。入寮プログラムの終了ということですが、次は研修スタッフからの修了を目標のひとつに頑張っていきたいと思います。卒業して、したいと思うことは、休日の合間を見つけて遠出して買い物や観劇、日帰り旅行ができれば良いなと思っています。そして、「施設に行く」と言っ、そのままになっている友人たちに、卒業の報告と今、施設でスタッフとして頑張っていることを伝えられればと思っています。

大きな目標もあります。漠然とですが、将来、自分で依存症の回復施設を開きたいと考えるようになりました。今までの自分の経験を活かしつつ、過去の自分のように苦しんでいる人を手助けできればと思います。

最後に、ダルクに繋がって「生きている限り、何回だって人生はやり直せる。」と本気で思えるようになりました。ここで与えられた人生を今度こそ、真剣に全力で生きていきたいと思います。僕を良い方向へ変えてくれて、寄り添ってくれる仲間たちに感謝でいっぱいです。これからもよろしくお願いいたします。

『卒業式』

アラ

施設に入所して、6 年目で卒業と言う事になりましたが、決して平坦な道のりではありませんでした。初めは順調に見えましたが、入所して約 5 ヶ月の時に、施設側からちがう施設にいかないかと言う話がありましたが、施設移動の話はことわりしました。他の施設に行ってクリーンでいる自信がなかったからです。自分はここで少しの縛りがないとだめだと思い、自由すぎるときっと巧みなアディクションに時間の問題で負けて酒に溺れて施設を出てしまいそうな気がしたからここでやらせてほしいと頼みました。しかし、6 ヶ月をすぎて初めの大きな試練がやって来ました。今までにも何度か飲酒欲求がはいりましたが、この時はものすごく強烈な飲酒欲求で、1 週間飲酒欲求が続き、相部屋の同僚も九州の実家に帰ってしまい、部屋は 1 人で次の日は日曜日でデイケアが休みでした。そう思うと夜中によからぬ考えが頭に浮かびお酒を飲む方向に考えが進み、お酒を飲んでも部屋から出ていかなければ、ばれないと思ったらどうにも欲求をおさえられなくなり、お酒を買いに行く決心をしてしまいました。2 回は玄関までいきましたがドアノブには手をかけずに布団にもどりました。が飲酒欲求には勝てずに 3 回目ですぐに寮を出て近くのコンビニに行き初めはお酒になかなか手がのびませんでしたがついに青キャップを 2 本手にし、お金を払いコンビニを出ました。普通ならコンビニを出てすぐにお酒を飲むんですがお酒の蓋をあけられなくて、部屋まで持ち帰りました。そして、ついにベッドの上でお酒を飲んでしまいました。少し時間がたって他の寮の仲間が遊びに来たので、のこのこと茶の間に出て行き話しをしました。そこではまだばれませんでした、夕方になり 4、5 人でゲームセンターに行くと言うので自分もついていきました。その時に朝に買ったお酒を 1 本もっていき仲間とはちがうゲームの所で 1 人でお酒を飲みながら競馬のゲームをやっていて、その後、仲間の所に行きトイレに行ったら仲間 3 人がいて、お酒を飲んでいるでしょうと言われスリップがばれました。スリップをしてしまいもう 1 度やりなおしてコツコツクリーンを重ねて、1 年のクリーンをつくり施設を出ようと思っていた時に、ある仲間があと半年いろと言うので考えてあと半年いる事にしました。

そして名古屋のコンベンションにいき、スピーカーの話しを聞いて、色々と感じる物がありとても勉強になりました。その後、車の免許証を取りに行く事になり、免許が取れるなら今まで引け目に思っていた仲間の送迎が出来ると思い、それをやってから出ればいいと思うようになり、出たいと言う気持ちがなくなっていました。歯医者、内科、精神科など、色々な病院に仲間を引率するうちに病気の事が色々と理解できるようになり、少し知恵もついてきました。なので、自分の健康に気を付けるようになり、内科の病院で年に一回の血液検査を先生にしてもらっています。検査結果は、その時々さまざまな結果ですが、悪い数値があれば、そこを活かす食生活をする事もあり、自分で自分の健康に気をつかうようになり、けっこう健康な状態を維持することができています。何をするにも健康が一番だと言う事に気づきました。送迎をしながら別の仕事をする事になり、自分にパソコンがはいれるのか不安でしたが仲間におそわりなんとかやっている所で、少しずつですが仕事を覚えている所です。去年の 12 月にまたしても大きなハイヤーパワーの仕掛けがあり、西門寮に行く事になり神様にためされ感でいっぱいです。ここで何が出来る訳ではありませんが、自分なりに目標もあり今は西門寮の仲間と楽しくやれています。そんな中で卒業式をもらい、とてもほしかった卒業証書をもって本当にうれしいかぎりです。

しかし、回復や成長は一生続けていかなければならない事なので、これからも自分を磨いていきたいと思います。新たな目標も同時に出来たのでそこに向っていききたいと思います。誰もが考えると思いますが、施設を出たら今まで以上に幸福になりたいので、どう生活をしていけば幸福な生活をしていけるか考えたいと思います。今の所は、今と同じような感じが 1 番いいと思うので、施設と仲間とずっとつながっている事だと思うので、仕事も志が同じ様な仲間をあつめてやりたく、数人で 1 つの班をつくり、アディクトでもきちんと仕事出来る事を証明して、2 班、3 班と班をふやしていき会社にアディクトの村のような物をつくり、みんなでつながりつづけていけば、全員が幸福になれると信じていますので、そのへんの事を深く考えながらやっていきたいと思っています。

もう少しいろと言ってくれた仲間のおかげで今の自分があります。本当にありがとう。感謝しています。修了証がもらえるまでがんばりたいと思いますが、わかりません。

近藤恒夫さんを偲ぶ会



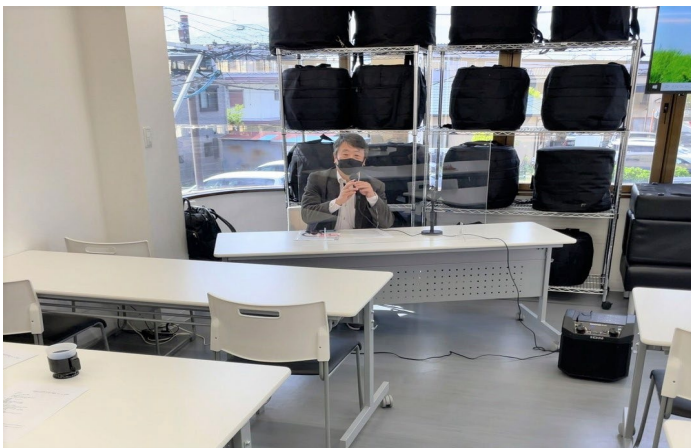
第4回修了式



お花見&BBQ



4月家族会(稲村先生)



メンバー報告

4 月のステージアップ

新規入寮者

シュン Stage1 に仲間入り！

メンバー

ミッキー Stage3 に UP！

サトル Stage2 に UP！

スタッフ

ヨッチャン サポートへ昇格！ クボッチ・タロウ トレーニーへ昇格！

施設報告 4 月 1 日現在 利用者 46 名です。

Manager 3 名		Chief 3 名		Trainee 3 名		Support 7 名
Stage1 4 名	Stage2 6 名	Stage3 13 名	Stage4 6 名	Stage5 0 名	通所者 1 名	

活動報告・予定

2 月報告

- 1 日 令和 3 年度障害福祉サービス事業者の
ための感染症対策研修
- 2 日・9 日・16 日
北里大学病院治療プログラム（KIPP）
個別支援計画会議
- 3 日 節分・豆まき&恵方巻
- 7 日・8 日
アルコール依存症回復施設職員研修
- 8 日 オキュペーションプログラム
- 14 日 HRI 水澤都加佐先生カウンセリング
- 15 日 神奈川県立精神医療センター
PSW 講座・講師
- 16 日 12 ステッププログラム・高澤
- 17 日 八街少年院薬物依存離脱指導
- 17 日・18 日
ギャンブル等依存症回復施設職員研修
- 18 日 定例会議
プレジャー・食べ放題
- 21 日 HRI 水澤都加佐先生セミナー
- 22 日 多摩総合精神保健福祉センター内
薬物再乱用防止プログラム
- 22 日・23 日
薬物依存症回復施設職員研修
- 23 日 EC 会議
- 24 日 横浜保護観察所
薬物再乱用防止プログラム
エイサー練習・小沢グランド
- 25 日 寮長会議
- 26 日 RDP 横浜月例勉強会参加（オンライン）

3 月報告

- 1 日 ニュースレター 29 号発送
- 2 日・9 日・16 日・23 日・30 日
北里大学病院治療プログラム（KIPP）
- 3 日 近藤恒夫さんを偲ぶ会
- 4 日 個別支援計画会議
- 5 日 プログラムカンファレンス
- 8 日 神奈川県立神奈川総合産業高等学校
薬物乱用防止講演
- 11 日・18 日・25 日
相模原市精神保健福祉センター内
依存症回復プログラム（FLOW）
- 14 日 HRI 水澤都加佐先生カウンセリング
- 15 日 オキュペーションプログラム
- 16 日 12 ステッププログラム・金田
- 17 日 八街少年院薬物依存離脱指導
- 21 日 HRI 水澤都加佐先生セミナー
定例会議
- 22 日 多摩総合精神保健福祉センター内
薬物再乱用防止プログラム
- 24 日 横浜保護観察所
薬物再乱用防止プログラム
- 25 日 八街少年院薬物依存離脱指導
プレジャー・オギノパン工場見学
- 28 日 相模原ダルク第 4 回修了式
- 29 日 EC 会議
- 30 日 寮長会議
- 31 日 相模原市障害福祉サービス等事業者の
ための集団指導
エイサー練習・小淵小学校

相模原ダルク家族会のお知らせ

家族の回復は本人の回復と重なります。そのため毎月行っています。相模原ダルクスタッフ及び、外部から講師プレゼンターを招いてお話を聞きいたします。相模原ダルク入寮者内外のご家族が集まり、勉強と交流の会（ミーティング）を開いています。依存症者の家族の方ならどなたでも参加できます。他の家族会の方も歓迎です。毎回 20 名程度が参加しています。ご希望により、施設スタッフとの面談もできます。

毎月第 3 土曜 午後 1 時半～午後 5 時 予約不要 直接会場（相模原ダルクデイケア 2 階）へお越しください。

＊会費として 1 家族 2 千円をいただき通信費や講師謝礼に使わせていただきます。

＜2022 年 1 月家族会報告＞

2022 年 1 月 15 日（土） 25 名参加（19 家族）

講師：相模原ダルク代表 田中 秀泰 （パワーポイント使用）

（体験談：施設長 金田龍介）

うちは年間 12 回家族会をしています。なぜ医師や弁護士や他の施設の方を講師として呼んでいるかというと、透明性を持ちたいからです。得てしてダルクは閉鎖的になってしまいがちだからです。まして入寮ですから透明性が保ちにくい。昔からあるダルクから逃げた場合、元のダルクに戻りなさいと言われることがあります。悪いことをしたならきちんと謝って仕切り直しをというならいいですけど、逃げるに正当な理由がある場合もあります。どうしてもダルクに合わない場合もある。うちのダルクだって完璧ではありません。足りない所は補っていかねばいけない。厳しい目も必要ですが、逃げ道を作ってあげないといけない場合もあります。その時ここに来た先生方にセカンドオピニオンとして意見してもらって良いのです。「うちの子はダルクが不安で」くらい言っても構いません。この病院が良くなければ、別の病院に行ってもいいのです。その点は尊重したいと思います。うちはオープンであろうと思っています。

1 月 15 日現在、相模原ダルクは利用者 45 名です。利用者からスタッフになった人もいるので、50 名以上でやっています。卒業生がスタッフになるのはダルクの特徴ですね。疑似家族です。覚醒剤は 24%。合法のアルコールギャンブルなどは 76%。覚醒剤は一回刑務所に入ったらプログラムなしでは止められませんから、ダルクができるまでは刑務所と社会を行き来するしかなかった。37 年前にダルクが出来てぴたっと止まる人が出て、すごいねという事になりました。まあ世界的なプログラムですから。ただし、ダルク依存という方も出てきました。止まって刑務所に行かなくなったというだけです。僕はダルクを開いたら、卒業できるようになってほしいと思いました。社会に戻ってほしいという気持ちがすごくありました。そこでステージ制度を作りました。他のダルクでは、一日目の人も 10 年目の人も、生活も同じ、お金も同じ。これじゃモチベーションがなくなるわけです。ここではステージ 1 の人と 5 の人とでは、生活もお金も行動範囲も違う。社会に戻れるきっかけをなるべく作るようにしています。うまくいっていたのですがコロナのこともあり、なかなか大変ではあります。ただ止まるだけではなく、社会の有用な一員となれるようにと頑張っています。

回復とはどういうことか。僕らは「文化だ」と教わります。言葉、話し方、金の使い方、服装、価値観、道德、仕事、遊び、家族関係、性的関係、あらゆることが変わる必要があります。元ヤクザが覚醒剤をやめて、でもヤクザの世界で出世するのが回復か、という話です。人は回復する前の知識や物差しでしか測れませんから。「ダルクは回復するためにある、薬を止めるためだけではないよ。回復のためには全部見直すんだよ」という事です。人間って変わるでしょ。どんなしっかりした家庭でも、息子が悪い世界に入ると、家族はどんどん乱れますね。家族会に繋がって間もない家族が言いがちな事は、育て方が悪かったのかと。目の前が火事なのに原因を考えても仕方ないのです。息子の引き出しに注射器を見つけた時、ポストに消費者金融の督促状が届いた時、まずは息子に焦点を当てて火事を止める努力を。それから家族会でゆっくり原因を考えて下さいと。話を分けます。

文責：伊藤

※公式ホームページ内、最近の記録欄に詳しい報告をお載せしております、ぜひご覧ください。

＜献金御礼＞

中村幾一様 針木伸佳様 酒井義広様 紺矢昭男様 櫻田るり子様 梅澤紘一郎様 久保田悦子様 楯弘様
海老原真美子様 神奈川県立神奈川総合産業高等学校様 神奈川県立相模田名高等学校様 中谷正代様 匿名様

＜献品御礼＞

鈴木優子様 島倉定様 大野悦司様 中尾優子様 小谷田郁代様 仲井和義様 久保田悦子様
清水静江様 （株）極東食材様 厚労省老健局様 奥貫妃文様 針木伸佳様 山名三枝子様 守屋美樹様
林妃登美様 中村とし子様 古屋順子様 石口加知子様 青天目勉様 匿名様

＜献金・献品のお願い＞

皆さま方には暖かいご支援をいただき、誠に感謝しております。重ねてのお願いで心苦しいのですが、大所帯となり食品・日用品が常に不足気味です。お米、缶詰、調味料、石鹸、シャンプー、洗剤、等々、ご家庭で余ったもの、献品いただけると助かります。ご家族には再三のお願いをしましりました。改めてニュースレター読者の皆様へ、献金・献品のお願いを申し上げます。

＜振込先のご案内＞

◎郵便振替払込口座 口座名「相模原ダルク」口座番号 〇〇270-1-138788

※発送作業の簡略化の為、大変恐縮ですが郵便振替用紙は2号に1度のペースで全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解ください。特に必要のある方、『匿名希望』の方は、その旨を通信欄に、その都度お書き下さるようお願い致します。

プログラムディレクター水澤都加佐先生より：『スピリチュアルな病と回復』多くの依存症者が「これは自分の問題だ、あなたは関係ない、飲酒をやめることもギャンブルを止めることも自分で何とかできる」と言います。自己中で、過剰な自己依存です。なんともできない数々の証拠があっても。また、依存症という病気は、家族より、食べることより、仕事より、季節の移り変わりより、何よりも飲酒、ギャンブル、薬物の使用が大切になります。価値観が変わるのです。判断力も病み、感情も病み、最後は体や生活がどうにもなくなってから治療を受けるのです。

回復は、多くの場合体から始まり、判断力、感情、そして健康な価値観を取り戻します。何よりも、大切な人、大切なこと、様々な大切な存在との結びつきを取り戻すことこそ回復の目標なのです。正直で、謙虚で、柔軟性があり、意欲的になります。スピリチュアリティとは、大切な存在との結びつき。孤立とは違います。ですから、アディクションの反対は、コネクションと言います。

編集後記：今回は「卒業・修了式」特集です。ダルクから卒業・修了とは？その含意はとにかく4年半、6年、8年の歩み、山あり谷ありの苦闘をさらけ出してくれました。回復の道とは、かくも狭き門険しき道なのか。新しいビジョンを示している点も頼もしく感じました。一方この人たちの家族の苦しみを思います。涙の谷を歩むがごとき日々も長かろうと。いつかその痛みの癒される日の来ることを、祈らざるを得ません。（サービス管理責任者 伊藤いずみ）

プリンシプル

相模原ダルクニュースレター NO. 30

編集人：一般社団法人 相模原ダルク

〒252-0237 神奈川県相模原市中央区千代田 3-3-20

TEL042-707-0391 FAX042-707-0392

URL <https://s-darc.com> Email info@s-darc.com

発行人：特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

定価 100 円

